

りよくさい　とき
緑彩の刻

加羅古呂庵 一泉

緑彩の刻

夏の盛りに、山の中の緑に囲まれたお寺を訪れました。観光案内によると、最寄り駅から徒歩1時間30分とあるくらいの俗世間から離れた静かな地です。あいにく小雨が降る天気でしたが、夏の強い陽射しが隠れ、しっとりとした風景に接することができました。そのときの印象をもとに、「堂宇巡礼」「睡蓮の池」「花菩薩」「彩り来迎」の4つの部分から構成してみました。

山門を入ると、右手に本堂があり、ご住職がいい声で由来などを話してくれます。さらに歩みを進めると、石塔や朱塗りの三重塔、その先には鐘撞堂もあります。

お寺の縁起によれば、創建は8世紀に遡るようですが、ご本尊は阿弥陀如来で、睡蓮の咲く池もあって、浄土信仰が盛んなりし頃の平安時代の趣をたたえています。

このお寺は、花のお寺としても知られているようで、訪れたときは百日紅が淡い紅の花を咲かせていました。あれこれと心悩ますこともない花々は、修行にいそむ菩薩の姿に重なるようにも思えました。

やがて雨があがると、柔らかな光が木々の葉の隙間から射し込み、聖衆来迎図よろしく、キラキラと輝く世界に取り込まれるようでした。

山門を後にすると、いつもの俗世間に染まるのですが、少しばかり心に残るものがありました。

1尺8寸管
尺八I
口 四

1尺8寸管
尺八II
口 ピ

花雲調子 六・斗 調弦替えあり
箏I
一 三 五 七 九 斗 為 巾

花雲調子 六・斗 調弦替えあり
箏II
一 三 五 七 九 斗 為 巾

十七絃
二 三 五 七 九 1 3 5 7

運指、奏法については、適宜工夫していただいでけっこうです。

加羅古呂庵ホームページ

